

オホーツク海 4 月 魚探情報

—試験調査船「北洋丸」による海洋観測および魚群分布調査の結果—

平成 28 年 5 月 6 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場

(担当：調査研究部 美坂 0162-32-7166)

- ◎オホーツク海沿岸域の底層水温は昨年と同様に高め
- ◎スケトウダラの魚群反応量は昨年と同程度の低い水準
- ◎宗谷岬東方沖ではイカナゴ類と見られる魚群反応が多数観察された

1 調査概要

2016 年（平成 28 年）4 月 25～27 日に稚内沖～網走沖のオホーツク海において，試験調査船北洋丸により，海洋観測および計量魚探を用いた魚群分布調査を実施しました。

2 水温観測の結果

調査海域における底層水温（海底上 3～5m）の分布を図 1 に示します。今年 4 月は，2015 年と同様に水深 100m 以浅では概ね 4℃以上となっており，2011～2014 年と比較して高くなっていました。

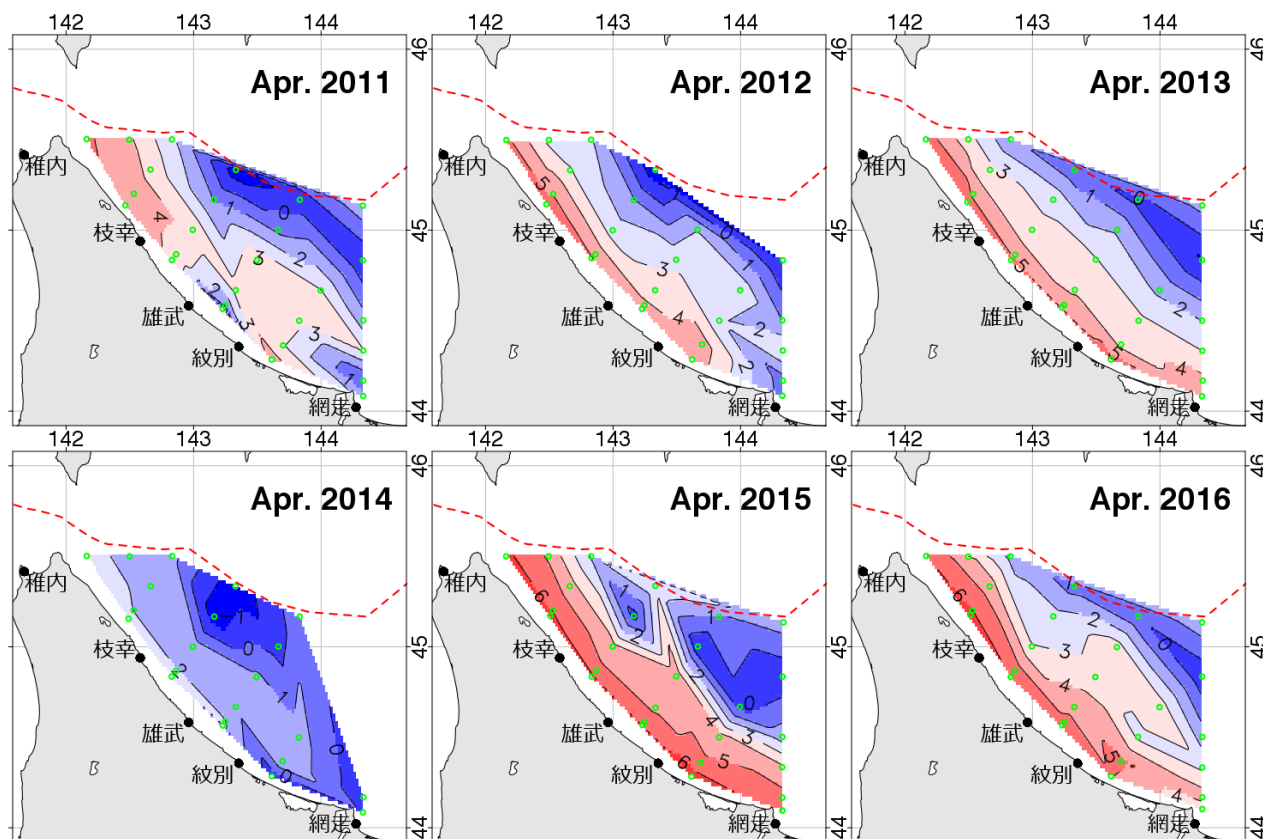


図 1. 北海道沿岸オホーツク海における底層水温（℃）の分布. 2011～2016 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果

計量魚探で得られた1マイルあたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、枝幸沖～雄武沖の陸棚上や北見大和堆周辺の斜面において、スケトウダラと考えられる魚群反応（図3）が見られましたが、いずれも反応量は大きくなかったことから、全体の分布量は少なく、2015年と同程度と考えられます。一方、宗谷岬東方沖の水深100m以浅では、イカナゴ類と見られる魚群反応が多数観察されたことから、イカナゴ類の分布量は過去5年よりも多い可能性があります。

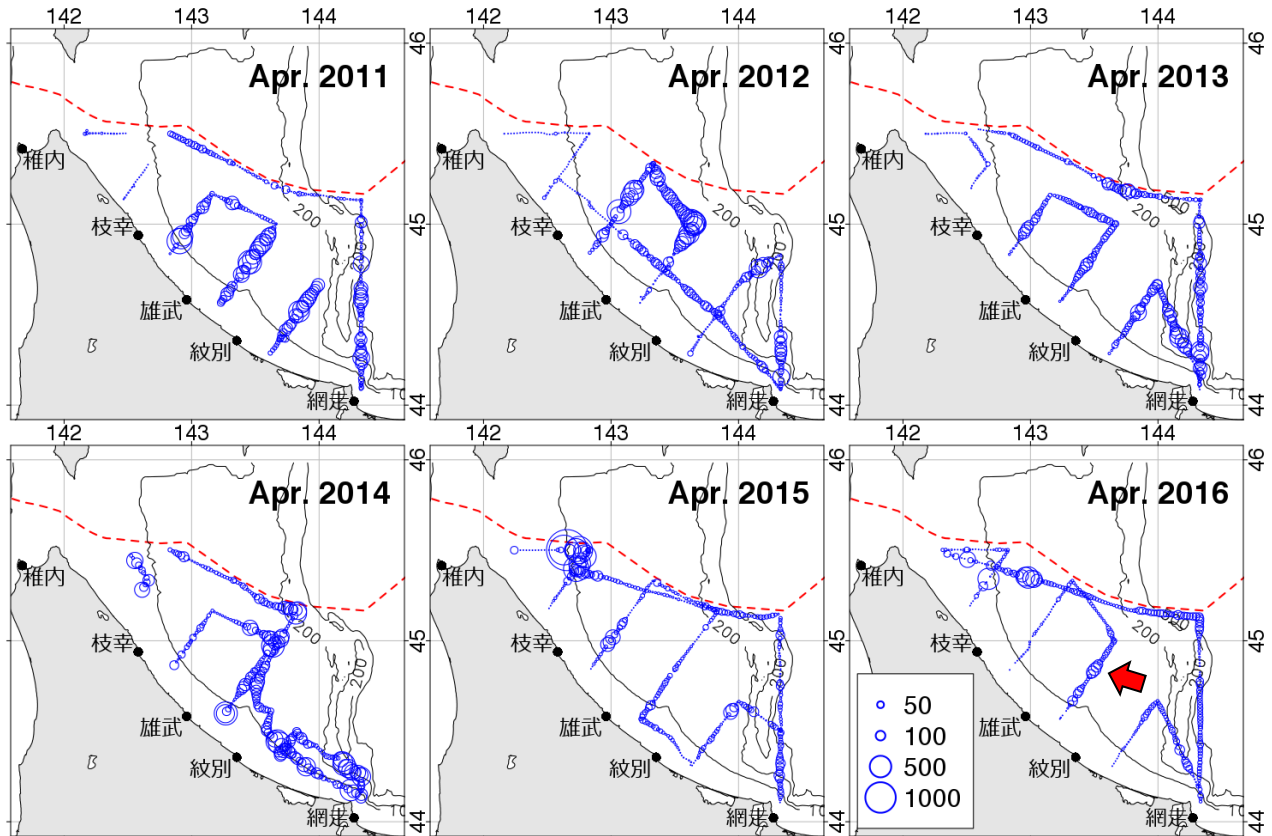


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 NASC (m^2/nm^2) の分布. 2011～2016年4月.

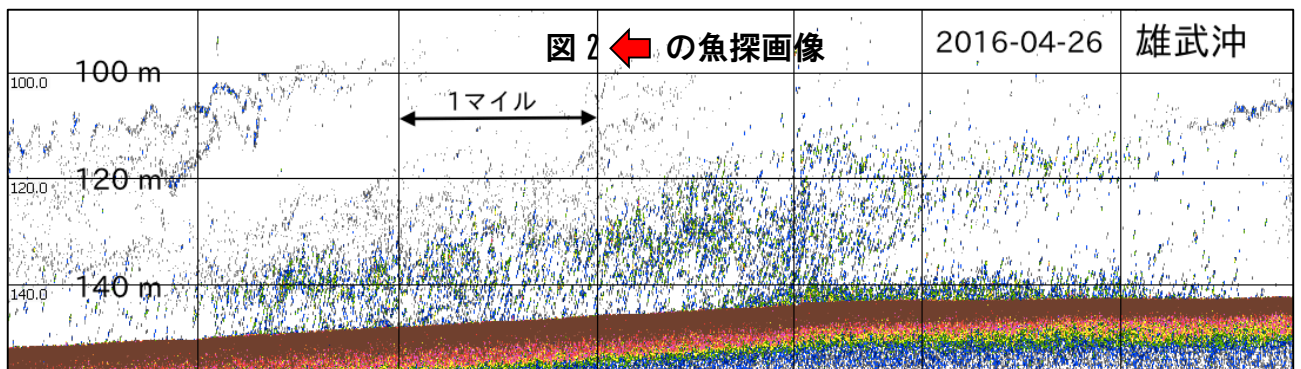


図3. 2016年4月26日の魚探画像（スケトウダラ）：雄武沖の水深150m付近.